

論文・レポートのまとめ方

学生研究発表委員会

この「論文・レポートのまとめ方」のコーナーは、小論文やレポートの書き方の要点だけをまとめたものです。論文執筆に当たっては、ゼミ等の担当教員の指導を受けて下さい

1. 条件の確認

- 1) テーマ(課題) は
 - a. テーマ指定の場合：何を要求しているかを確認。
(テーマが漠然としている場合 → テーマを絞り込む)
 - b. テーマ指定がない場合：話題を選び → メイン・テーマを設定
(テーマは絞って小さく、具体的に)

<例：論証型（一般的な形式）>

話題を選び → メイン・テーマを設定 → 仮説を立てる（自分なりの結論） →
仮説の正しさを納得させる資料を示し → それを説明しながら証明する。

- 2) 文字数等長さの確認。
- 3) 様式等の指定の確認。
- 4) 提出日の確認。

2. 資料(データ等)を集める

- ・ 図書、雑誌記事のコピー、新聞記事の切り抜き、インターネット記事等での収集

3. 文献カード(ノート)の作成

- ・ ノートの作成：読んだ物の中で、収集しておくべきものは、メモをとり文献カードにする。

<カード記載の要領>

- a) 1枚のカードには1つのことしか書かない。
- b) 本や記事の内容を要約したり、原文を引用したものを記入。
- c) 書名、著者名、発行所、出版年等の書誌事項の記入。
- d) 内容を見分けやすいようにカードの上はしに「項目」を記入し、項目別にまとめる。

<記入すべき必要事項>

- ・ 見出 → 作成したカードを分類整理するため。
- ・ 日付 → カードを作成した日付を記入。
- ・ 本や記事の内容を要約したり、原文を引用したものを記入。
- ・ 書誌事項

図書：1) 著者（訳者）、2) 書名、3) 出版社、4) 発行年。

雑誌論文：1) 著者、2) 表題、3) 掲載雑誌、4) 巻号（無い場合は月日）、5) 発行年、6) ページ数。

新聞記事：新聞名、発行年

辞典等：1) 著者（訳者）、2) 項目名、3) 辞典名、4) 出版社、5) 発行年、6) ページ数。

4. 構成を考える

- 1) 論文構成：「序論、本論、結び」の原則の適用。
- 2) 文献カードを配列しつつ、大まかな論文の骨組み（アウトライン）を構成する。
- 3) 序論（問題設定）：何について書くのか、はっきり提示する。
- 4) 本論：調査・研究のやり方と、それによって明らかになった事実を述べる。
*論文には独創性を示すことが重要。（自分の発見や意見、見方を示す。）
- 5) 本論を分ける必要がある場合 → 三部構成、四部構成、五部構成等を考える。
- 6) 結び（結論）：明確かつ簡潔に、結論を述べる。
 - a. 「調査・研究結果」を簡潔に列挙しまとめる。 →
 - b. それにもとづいて自身の見解（主張）を組み立てる。 →
 - c. そこで行なった調査・研究の意義を述べ、将来の問題を展望する。

5. 本文作成上の留意事項

1) タイトル（テーマ）：必要ならば、主たるタイトルにサブタイトルを付ける。

- ・ サブタイトル：内容の説明を強める、あるいはタイトルを補強する。

<例> タイトル+サブタイトル>

『東アジア共同体 —経済統合のゆくえと日本—』

2) 構成法

- ・ 章・節などの分節を明確化するために、ローマ数字を使用。（Ⅰ., Ⅱ., Ⅲ...）
- ・ 章・節につける「見出し・小見出し」を工夫（章は目次で、それを読むだけで論文の内容がわかるような表現が必要。）

3) 記号の用法（カッコ類、つなぎ符号）

カッコ類（カッコ：「」・（ ）・◇, 二重カッコ：『』・《》・“”・《》等）

- ・ 「」：引用文、もしくは特殊な意味を持つ語句を本文と区別するために使用。
- ・ （ ）：短い付加的説明に使用。
- ・ 『』：カッコで囲んだ文中で更に区切りが必要な場合。また、参考文献として揚げた書籍、雑誌等の題名を囲むときに使用。つなぎ符号（-：ハイフン, —：ダッシュ, ……：傍点, 等）
- ・ -（ハイフン）：二つの距離や連続を示す。（例：PP. 22-23, 1999-2000）
- ・ —（ダッシュ）：（ ）と同じように文章や語句を省略するところ、あるいは文を転換させるところに用いる。
- ・ ……（傍点）：文字の上部または下部に付ける。

特定の文または文中の特定の語句をとくに強調する時に使用。

<例> 「あるものの価値は…………… どれだけの犠牲を……………」

4) 引用の仕方

引用符：「」もしくは ◇, 二重引用符：『』, もしくは 《》

- ・ 用法「」, 「……『』……」, ◇, <……《》……>（引用の中の引用は「二重引用符」に）引用箇所が正確に判別できることが

必要。長い引用は、本文より2, 3文字下げた別段落とする。もしくは文字ポイントを小さく記載。

5) 註の付け方

- ・ 註：本文中のある部分について、特に補助的な説明や解釈を加える必要があり、しかも本文の一部として記述することが文書上望ましくない場合に付ける。
- ・ 用法：本文における註の指示、当該の単語・表現の終りか、文章の終りの（句点の前）右肩に（ ）（片カッコ）を付け上付数字で記載。

<例> 「……という時代は、ここから始まる1)。」

6. 引用文献の作り方（記載順位＝引用番号順）

<例>

- 1) 伊田広行, 『シングル単位の社会論 —ジェンダー・フリーな社会へ—』, 世界思想社, 1998年, 22ページ
- 2) 金子雅臣; 水島広子, 「対談 ジェンダーフリーはこわくない」, 『世界』738号, 2005年, 88-95ページ
- 3) 『朝日新聞』(大阪) 2013年5月20日 朝刊 1面
- 4) 山口智美 「「ジェンダーフリーになぜこだわるのか？」
http://homepage.mac.com/saitohmasami/gender_colloquium/gfkodawari.htm
2005年6月15日 確認 『朝日新聞』 200210 朝刊 「社説」

7. 参考文献表の作り方（記載順位＝発行年順, 五十音順, 主題順等ある。）

<例>

- ・ 伊田広行, 『シングル単位の社会論 —ジェンダー・フリーな社会へ—』, 世界思想社, 1998年, 380ページ
- ・ 金子雅臣; 水島広子, 「対談 ジェンダーフリーはこわくない」, 『世界』738号, 2005年, 88-108頁
- ・ 「ジェンダー・フリーを考えるフォーラム／愛媛」『朝日新聞』（愛媛）2005年5月5日朝刊 1面
- ・ 山口智美 「「ジェンダーフリーになぜこだわるのか？」
http://homepage.mac.com/saitohmasami/gender_colloquium/gfkodawari.htm 2005年6月15日確認

以上